

原田村馬種龍 [天保13年(1842)生] のこと

- 会津藩士 五郎右衛門 (明治3年4月～)
 - 慶応年間 知行八百石
 - " 4月3月 若年寄、同年8月家老、同年10月17日 容保父子東京移送後の御留守居 (猪苗代謹慎所で謹慎者統轄)
 - 明治2年(1869) 2月8日 若松居残 (残務処理、病院看者のうち全快者の管理、脱走・潜伏者の探査捕縛、老幼婦女子の管理、容保侍共2人の出産や生まれた厚姫、慶三郎(容大)のケア、戦死者の改葬など)
3/12より改葬始、城・郭内は4月初め了、近在山野の分は翌3年11月まででおよそ了。
 - 明治3年(1870) 1月19日 山川大蔵と共に執政取替
2月21日 謹慎御免
4月5日 容保の命令で東京着
5月19日 山川大蔵(浩)と共に斗南藩大参事
8月 容大一行の斗南移動準備のため若松に戻る
9月2日 容大に随行し若松大龍寺出立
9月22日 五ノ戸到着
9月26日 斗南で樺大参事免官の知らせを受ける (8月22日付)
10月24日 三ノ戸郡八幡村へ引移る
12月10日 祖先日国筑前へ墓参の為下向
- ※ 明治3年3月 政府に対し斗南への旅費、生計費 67,268兩の拝借願
政府の内意あり 4月～6月に4,500人も移住。9月に不裁可。金17万両と米1200石下賜。範田内での移住を了ぐる。

○ 明治4年7月 廢藩置縣

- " 8月25日 容保、容大、喜徳、厚姫 田名部発東京へ
- 29日 " " へ原田、内藤介右衛門と共に奉伺
- 9月1日 " " 見送り
- 11月22日 山川与七郎始末の役々より見込章にて活計立上り
申請経緯との和陸の申す。

☆ 県博 阿部綾子さん 講座資料
☆ 青森県史資料 近世 浅羽家文書

明治2 (1869) 5月4日 「若松県」設置
 県庁 → 鶴ヶ城内
 田島、津川 → 出張所
 小荒井、猪苗代、天沼郡西方 → 出張所

6月10日 若松県知事 四條隆平(ちかとし)
 ① 徴士 岡谷繁實(しげざね)
 (ちかとし)

↓
 9/16 会津藩再興を建言
 24. 猪苗代5万石 (奉公の願、会津刺青持上京)

9月28日 家名再興許可

11月3日 陸奥3万石

水島純 青森、北海道調査一歳入増の見込み
 (山川浩(大蔵、与七郎) 移住推進 (海)
 永田久成)
 ↓
 町野圭水 反対 会津に

原田氏

936~941 藤原純友の乱に追捕使の主典として出兵 原田に城て原田氏
 1249 小治土城、高祖城築城 (福岡県糸島市高祖)
 1587 秀吉九州征伐 南城 廃城
 1651 保科正之 会津移時 召し抱え
 ↓
 種龍 天保13(1842)8月生まれ

① 1868(慶応4年)1月から69(明治2年)6月まで 政府に召し出された 議事官
 諸藩士・庶民から有能な者を選ばれ 議事所で国政の審議に当たった。